

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和元年度病虫害発生予察注意報第5号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

2月5半旬調査の結果、カンザワハダニは例年ほとんど見られない表層でも確認され、そこでの寄生虫数・発生ほ場率はともに過去10年で最も高い状況となっております。

また、表層・裾葉ともに孵化幼虫の発生が多数確認され、今後の気象予報からも急激に増加する可能性が高いので、ほ場での発生状況を早急に確認し、防除の徹底について指導願います。

注意報第5号

- 1 対象作物：茶
- 2 病虫害名：カンザワハダニ
- 3 発生地域：県下全域
- 4 発生量：平年・前年より多



予察調査で採取した、カンザワハダニの卵と
孵化幼虫(2020年2月撮影)

5 注意報の根拠

- (1) 2月5半旬の調査の結果、表層での寄生虫数、寄生葉率および発生ほ場率とも平年・前年より高かった。

(表層)

寄生葉率	3.4%(平年 0.6%、前年 0.4%)
50葉当たり虫数	11.7頭(平年 0.5頭、前年 0.3頭)
発生ほ場率	60%(平年 19%、前年 20%)

- (2) 今後の気象予報

福岡管区气象台が令和2年2月27日に発表した1か月予報では、気温が高く、多発生の条件になっている。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 春期の防除適期は、孵化幼虫の発生初期である。
その時期は、例年なら平坦地で3月中旬、山間地で3月下旬であるが、既に孵化幼虫が見られるほ場もあるため、必ず園の発生状況を確認し防除を行う。
- (2) 裾葉・表層ともに発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は、卵にも効果の高い薬剤で速やかに防除を行う。
- (3) 薬剤は、寄生の多い葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。
- (4) 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

